

掴め君の未来を！ 3月号



慶進中学校・高等学校
進学指導部 令和3年3月2日発行

共通テスト全日程・国公立大前期日程終了

- ◎1月30、31日に実施された第二日程は、第一日程と比較して、国語はセンター試験寄りに、数学は第一日程とほぼ変化なし、という結果であった。
- ◎2月13、14日に行われた特例追試験は、全国で受験者1名であった。
- ◎共通テストの最終的な平均点が2月18日発表された。2月号でお伝えした第2回中間発表から大きな変化はない。()内は前年比。

英語リーディング	58.80 (0.65↑)	リスニング	56.16 (1.4↓)					
数学Ⅰ・A	57.68 (5.8↑)	数学Ⅱ・数学B	59.93 (10.9↑)					
国語	117.51 (1.82↓)							
物基	37.55 (4.26↑)	化基	24.65 (3.55↓)	生基	29.17 (2.93↓)	地基	33.52 (6.49↑)	
物理	62.36 (1.68↑)	化学	57.59 (2.80↑)	生物	72.64 (15.08↑)	地学	46.65 (7.14↑)	
世界史B	63.49 (0.52↑)	日本史B	64.26 (1.19↓)	地理B	60.06 (6.29↓)			
現社	58.40 (1.10↑)	倫理	71.96 (6.59↑)	政経	57.03 (3.28↑)	倫	政経	69.26 (2.75↑)
総合5教科7科目文系型	555 (8↑)	5教科7科目理系型	571 (19↑)					

(物理・化学・現社・政経は得点調整後の平均点)

◎今年の入試は、入試改革初年度であり、共通テストにおける国語・数学の記述問題の出題見送りや、英語外部検定試験・ポートフォリオ導入見送り等の変更が相次いだことに加え、ちょうど1年前の今頃から急速に、コロナウィルス感染拡大が危ぶまれ、学校が休校になるなどあらゆる生活上の制限が加えられ、大学入試の日程変更や入試内容の変更が、ごく最近まで続いた。そんな波乱の大学入試であったが、なんとか国公立大学前期試験まで無事終了し、ひと段落ついた。今は、中期・後期試験の準備を進めながら、前期試験の結果待ちである。先の見えない不安の1年間、受験生の皆さんにお疲れさまでした、よく頑張りましたと言いたい。

卒業おめでとう高3生！

がんばれ新高3生！

未来は君たちの手の中に...

公民と物理・化学・生物・地学の対策はまた次号で……。(紙面がなくなっちゃいました)



共通テスト来年度の対策は？～地歴・理科基礎編～

【地理歴史】

◎世界史B

地図や写真、グラフなどの資料が、昨年のセンター試験では6であったのに対して今年は17と大幅に増加した。資料を読解しつつ、歴史的な知識と連動させて解く「思考力」の必要な問いが多かった。設問数は減ったが、解答に、より多くの時間を要する。世界史の基礎知識とともに資料の読解力が求められた新傾向の問題や、歴史的事項がどの時代に起こったのか、歴史の流れの把握のほか、受験生が手薄になりがちな戦後史や地図の知識も出題された。単に語句を暗記するのではなく、歴史のタテ(時間的な前後関係)・ヨコ(同時代の異なる地域の出来事)の関係に注目して学習を進めることが大切だ。共通テストでは同時代(世紀)の出来事について問う問題が複数あるので、年表を読み世界全体の動きについて把握し、簡単な年表が書けるように学習しよう。

◎日本史B

大問と時代の構成はセンター試験とほとんど変わらなかった。グラフを用いた出題があったが、読み取りで対処できる。図や先生の解説文を用いた問題や地図を用いた整序問題は従来のセンター試験には見られなかった。解説文の中にある情報を見落とさないこと、資料にはヒントが示されているという意識をもって確認することが必要である。文化史(仏像彫刻)を例にとると、仏像彫刻を把握していく際に、(1)ほかの時代で扱う仏像彫刻と比較する、(2)写真で確認してその特徴を考える、(3)当時の仏教はどのような性格をもっていたのかを把握する、(4)政治・外交・社会など他の分野との関連性を確かめる、など複数の視点で歴史を捉えることを意識して、読み方を変えてみよう。このように考えながら教科書を精読することが重要だ。

◎地理B

用語や地名の知識を問う設問は少なく、理論的な考察力や、多面的な理解が求められた。米国大統領選を題材にした出題も見られた。センター試験に比べ組み合わせ式の問題数が20問と増加。文章の正誤を判定する4択式の問題は大きく減少している。センター試験同様に図や表を多用し、地理的な考え方や理解を問う問題が中心である。アメリカ合衆国に関する出題で、2つの設問が連動した新傾向の問いがあった。共通テストにおける地理Bの顕著な特徴は地図や図表、写真などの資料を使った出題の割合が高いこと。これらを読み取り、利用する技能が求められている。自分が知らない地名が出てきたら、必ず地図帳を開き、その位置を確認する習慣を身につけるようにしよう。教科書や資料集を用いて、主題図(テーマのある地図)や写真などに見慣れておくことも重要だ。また、統計についても、順位、数値の暗記ではなく、統計の背後にある地理的要因を読み取る意識で、最新の統計をこまめにチェックするようにしよう。

【理科基礎】

◎物理基礎

センター試験と同様に第1問の小問集合、第2問の波動・電気、第3問の力学と、各分野からまんべんなく出題された。共通テストに移行し、現象把握と数値計算に重きを置いた出題となった。「物理基礎」の内容は、中学校で学んだ理科の物理分野が基礎となる。物理は積み上げ型の科目であり、基礎となる中学理科の理解が不十分だと、「物理基礎」の理解も難しくなる。物理学習のスタート地点にいる高校生は、中学理科の力学、波動、電磁気などの中で忘れていた知識やあいまいな内容をまず復習しておこう。

◎化学基礎

従来のセンター試験に近い形式。「陽イオン交換樹脂」のように、一部「化学」で扱われるテーマに関する設問も見られたが、「化学基礎」の範囲で解答できる内容であった。計算が必要な問いが増加。計算過程がやや複雑な問題も見られた。共通テスト化学基礎では、「グラフ」や「化学実験」に関連させた設問の出題がみられる。この傾向は今後も続くと思われるので、普段の学習からグラフの読み取りや、化学実験をテーマとした設問に慣れておくようにしよう。また、従来のセンター試験と比べるとリード文がやや長い設問も見られ、読解力も必要になるため「読むこと」も意識して学習を進めよう。

◎生物基礎

直接的な知識を問う空所補充問題の数が1題のみであり、昨年度の15と比べて大幅に減少した。一方、図や資料、実験結果を解析する「思考力」が求められる問題の数が10と、昨年度の4と比べて大幅に増加した。時間的な余裕がなくなったと思われる。「資料を見ながら間違っている箇所を探す問題」や「ピースを当てはめて正しい図を作成する問題」など、真新しい問題も出題されている。「用語を覚えているかどうか」ではなく、「用語を説明できるかどうか」を習熟度の指標とすることだ。「ある仮説に対して、仮説を実証するためには何が検証されるべきか」が問われる。高3になる前から教科書に記載されている実験を検証し、図や表を解析する力を地道に鍛えよう。

◎地学基礎

図やグラフもありしっかり読むことが必要。考察する力を必要とし、知識だけでは難しい問題が増えた。たとえば台風をモチーフとした低気圧の性質を考察する問題では、リード文をしっかり読めば解けるが、概念の理解がないと厳しい。単純な知識問題は少なく、様々な分野の知識や考察力が必要になる。基本的な計算力も必要だ。とりわけ、単位の計算や比・比例の考え方には習熟しておこう。

